



平成30年3月期 第2四半期 決算説明会

クボテック株式会社

概要

- ◎フラットパネルディスプレイ(FPD)分野では、FPDメーカーの設備投資は引き続き堅調で、液晶や有機ELなどで設備投資が継続されました。
- ◎当第2四半期は、売上は前年同期を上回り、損益は当初計画通り黒字となりました。
有機ELや機能性フィルム向け検査装置など液晶以外の受注、販売が増加し、3DCADシステムの国内、海外での収益拡大にも注力いたしました。
- ◎当社グループは、新規事業、新製品の開発・販売が徐々に成果を上げており、事業構造の改革やコスト削減効果と合わせて、安定した売上と利益の確保に努めております。
- ◎通期においても、画像処理外観検査装置など売上は計画通りで、当初業績予想を達成する見込みであります。

経営成績

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成29年9月期)	前第2四半期 (平成28年9月期)	前 期 (平成29年3月期)	当期予想 (平成30年3月期)
売上高	1,574	1,334	2,731	3,400
営業利益	68 (4.4%)	34 (2.6%)	26 (1.0%)	220 (6.5%)
経常利益	63 (4.0%)	24 (1.8%)	12 (0.4%)	200 (5.9%)
当期純利益	51 (3.3%)	19 (1.5%)	1 (0.03%)	170 (5.0%)

◎当第2四半期は、主力の画像処理外観検査装置が国内及び中国向けに好調で前年同期に比べ増収となり、損益は当初計画を達成し黒字となりました。

◎通期においても、画像処理外観検査装置は当初計画の受注を既に確保しており、当初計画を達成する見通しであります。

◎海外子会社は、売上が変動する中においても経費の削減を進め、収益性を改善してまいりました。第2四半期においても連結業績に寄与し、通期に向けて当初計画を達成する見込みです。

貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期 (平成29年9月期)		前第2四半期 (平成28年9月期)		前 期 (平成29年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産						
現預金	1,111	29.6	870	27.9	971	29.0
売上債権	1,236	32.9	859	27.5	1,019	30.5
在庫	464	12.4	417	13.4	397	11.9
その他	△ 73	△ 2.0	△ 51	△ 1.7	△ 62	△ 1.9
固定資産	1,020	27.1	1,027	32.9	1,020	30.5
資産計	3,759	100.0	3,122	100.0	3,346	100.0
流動負債	2,363	62.9	1,593	51.0	1,864	55.7
固定負債	244	6.5	404	13.0	394	11.8
負債計	2,608	69.4	1,997	64.0	2,259	67.5
資本金	1,951	51.9	1,951	62.5	1,951	58.3
利益剰余金	△ 749	△ 19.9	△ 782	△ 25.1	△ 801	△ 23.9
その他	△ 50	△ 1.4	△ 44	△ 1.4	△ 62	△ 1.9
純資産計	1,151	30.6	1,124	36.0	1,087	32.5
負債及び純資産合計	3,759	100.0	3,122	100.0	3,346	100.0

◎総資産は、前年同期末に比べ、現預金、売上債権などで6億円増加した結果、37億円となりました。

◎負債は、前年同期末に比べ、仕入債務や借入金などで6億円増加し、26億円となりました。

◎純資産は、前年同期末に比べ、ほぼ横這いで11億円となりました。

報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成29年9月期)		前第2四半期 (平成28年9月期)		前 期 (平成29年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
日 本	1,311	83.3	1,068	80.1	2,148	78.7
米 国	191	12.2	186	14.0	424	15.5
韓 国	71	4.5	79	5.9	158	5.8
計	1,574	100.0	1,334	100.0	2,731	100.0
うち海外	598	38.0	726	54.4	1,391	50.9

◎日本では、主力の画像処理外観検査装置の売上が、国内、中国の大手FPDメーカー向けに好調で前年同期に比べ増収となりました。

特に有機ELや電池関連の機能性フィルム向けなど従来の液晶装置以外の売上が伸長しました。

◎米国では、3次元CADソフトウェア「KEYCREATOR」の売上は横這いですが、事業体制の見直しによる収益性改善効果から、損益は黒字となりました。

◎韓国では、韓国大手FPDメーカー向けの画像処理外観検査装置関連が、客先納期の都合から売上の一部繰り延べの影響があり、横這いとなりました。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成29年9月期)	前第2四半期 (平成28年9月期)	前 期 (平成29年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	171	74	43
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 77	△ 97	△ 103
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	47	△ 446	△ 265
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1	△ 33	△ 14
V.現金及び現金同等物の増加額	139	△ 502	△ 340
VI.現金及び現金同等物の期首残高	939	1,280	1,280
VII.現金及び現金同等物の期末残高	1,079	777	939

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増加はあるものの、仕入債務の増加、減価償却、純利益の計上などから1億7千万円の収入となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、3DCADシステムの開発投資などで7千万円の支出となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、銀行からの借入と返済によって4千万円の収入となりました。